

平成 28 年度 第 6 回 SD 研修会報告

内 容	高大接続型教育プログラム「Weekday Campus Visit」説明会
日 時	平成 28 年 12 月 9 日（金）13：30～15：00
場 所	宮崎国際大学 2 号棟 107 教室
進 行	矢野 入試広報部次長
出席者	SD13 人他教員
議 事 内 容	
<p>高大接続型教育プログラム「Weekday Campus Visit」（以後WC V）について説明</p> <p>1. 背景</p> <p>文部科学省が高大接続改革実行プランを平成 27 年 1 月には大臣決定として公表している。それに従って大学入学者選抜改革を進めなくてはならない。その一つとして「Weekday Campus Visit」を本学の新たな取り組みとして実施する。</p> <p>2. 研修内容</p> <p>NPO 法人 NEWVERY の倉部史記氏により「Weekday Campus Visit」の説明があったが、初めにこのシステム導入の経緯説明があった。</p> <p>日本には、昔は 28 種類ほどしかなかった学位が、現在 700 種類以上あり、高校の先生にとっても説明できる範囲ではなくなっている。また、全ての大学で同じようなキャッチフレーズが使われている。大袈裟に言えば、日本の大学には都心に近い大学か自然豊かな大学の 2 種類しかない。違いがあるのに表現し切れていない。例えば、少人数制でも 4 年間ずっとの所もあれば、最終学年だけという所もある。同じ教員になるにも、どんな先生になるかはどの大学で学ぶかで違ったりもする。</p> <p>このように、データ公開だけでは伝えにくい面（どれだけ先生と密接なのか等）があるので、体感型のプログラムを考えた。</p> <p>WC Vは体験型プログラムで、大学側としては現場に負担が少ないため、オープンキャンパスより頻度を多くすることが出来るメリットがあり、学生としては入学後の先輩達の姿を見ることで将来がイメージしやすいメリットがある。</p> <p>WC Vは、普通の授業を受講・見学する形で、高校生のために準備された模擬講義ではない。そのため、高校生が大学の実際の学びや必要なレベルが理解しやすい。</p> <p>公募型と高校別型があるが、公募型の場合、高校の振替休日の平日に実施したり、土曜・祝日に大学が講義する日に実施したりする。</p> <p>WC Vでは、高校生を見学者やお客様ではなく、学習者として送り出す。事前にガイダンスで大学のイメージをアンケートし、事後の振り返りワークを通してイメージの違いなどに気づきを持たせる。仮説と体験、そして検証というアクティブラーニング形式で学ぶ。</p> <p>参加学生については、大学生と同じようにということで、父母同伴は受け付けず、服装は私服で、昼食も準備せず大学生と同じように自分でお金を出して食堂で取ってもらったりする。</p> <p>次に、WC Vの成果と活用方法について説明があった。</p> <p>女子学生の参加比率が高いが、学びのスタイルを気にする女性が多いと考える。</p> <p>何度も参加する学生が、オープンキャンパスよりも多い。満足度も高い。志望度を上げる効</p>	

果もあり、マッチング度合いが高いので、中退率が低い。

次に、導入方法について説明があった。

高校生が授業を理解できるのかという疑問は不要である。内容を理解することが目的ではなく、大学生の様子を観察し、学びのレベルなどを感じる事が目的だからです。

授業公開の範囲は全てが理想だが、都合により一部でも構わない。コーディネーターは学生が一番向いているが、入試広報関連の職員が担当することが多い。このコーディネーターは NEWVERY の 6 時間養成講座を受講した人でないと実施できない。

初年度には、この養成講座や導入研修（広報）を NEWVERY が大学で実施する。

導入から、実施までは半年弱かかり、2 月導入開始で 7 月に実施ができる仮の日程説明があった。